

3 気象と気候

二 自然災害

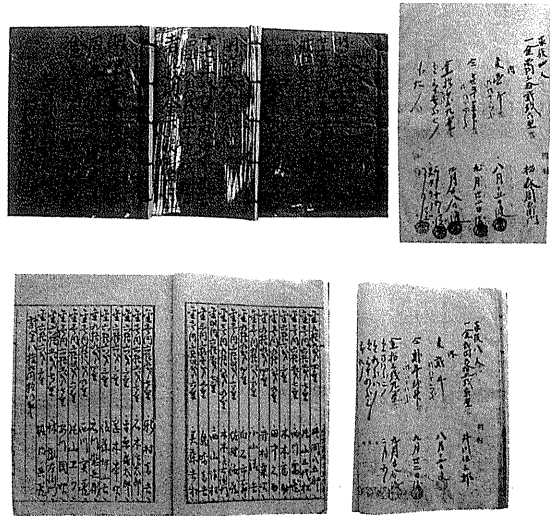
江戸期の災害

「御用日記」他によると、宝暦七年（一七五七）七月二十六日、大風によって姫子鷗社の神木四本、善照寺の仏木五本（松七本・檜二本）が折れた。嘉永六年（一八五三）八月三日には、大東風によって沿岸に被害をうけ、同七年十一月五、六日には前代未聞の地震があり、処々で石垣崩れや作道地割れ等の被害があり、氏神で安全祈禱を行なった。安政二年（一八五五）一月十八日の夜中、六回の大地震があり、五月十七、八日には高汐があった。同四年八月二五日には、更に大きい地震があり、五年八月中旬頃、西方に彗星が出現した。

口碑によると、天保十三年（一八四二）の八月下旬か九月上旬、激しい風雨と高汐によって海岸部が破壊され、宮側の波止が全壊した。同十五年九月二日にも高汐の被害があり、大下で開発中の新畑沖土手の石垣十三間余が崩れ、庄屋彦右衛門の持地三畝余他が流失した。明治六年は、四、五月に雨が少なく、田植が遅れた。夏も

大旱拔であったが、八、九月の大風雨によって大凶作となった。

明治十七年の 台風と高汐 これは県下全域、特に瀬戸内沿岸には歴史的な被害をもたらした大災害である。八月二五日夕六時頃から東風強く、ついで南風から西風に転じた。午後十一〜十二時頃が猛烈の風雨となり、高汐も起って人家田畑に多大の被害を与えた。その状況は次の通りである。



明治17年8月の暴風雨記録

- 海水浸入 田二町三反一畝十六歩 畑一九町二反四畝 宅地四反八畝一八歩
- 作物被害 甘藷五六町三反六畝 番三町二反二畝 青芋一町五反 粟・ヒエ五町一反五畝 他一町四反三畝
- 流失家屋 学校二棟 人家十二棟 納屋七棟 土蔵一棟 他三棟
- 転倒家屋 人家二九棟 学校の一部
- 破損家屋 人家一七棟 土蔵一棟
- 焼失家屋 人家八棟 灰納屋八棟 他九棟（海水が侵入し石灰より発火）
- 破壊船舶 百五十石積以上三艘 以下一四五艘
- 堤防破壊 二か所
- 倒 木 目通五尺以上六本 以下二四〇本
- 人畜被害 溺死男五人 負傷一人 溺死牛二頭

ために学校は止むなく休校、復旧費を県に願ったが、建築費の補助として二〇円が下附されたのみであった。村民の窮乏も甚だしく、救済を願ったがその年は許可されず、大阪市の和田清兵衛、村内の井村寛、松垣信傭ら、その他大下岡村の篤志家五三名の各三〇銭前後の寄贈によって、漸く飢を凌ぐ状況であった。

翌年六月、重ねて岡村の六五家族四六一名、大下村は一三家族八一人の者が県の救助を願ったが、許可分は岡村五五人、大下は七人のみが認められ、金と麦約百円四三銭余が給付された。また明治二十四年は、虫害のため大下の大豆は大凶作、九月十四日の台風により海岸の田畑が浸水し、一、五〇〇円の作物被害をうけた。

明治三八年の水害

八月二日午後八時頃から降雨があり、九時頃から激しい風雨となった。ために河川の水位は三尺程上り、満潮と重なって沿岸地域では、多大の損害となった。特に（岡村）城ノ

下、郷内、西側、寺側、向側（大下）城□の浸水が激しく、午後十一時三〇分、漸く平水に復した。その状況は

- 家屋被害 崩壊三棟 浸水一三八戸 耕地作物 浸水六町八反 流失埋没大豆一六石 同小豆五石 同甘藷六千二百貫
- 里道破損 一〇か所 延長九〇間

復旧については県補助一、三三二円一錢と、村民の寄附金及び賦課金一、九二七円九七銭四厘により、長年月を経て漸く竣工をみた。

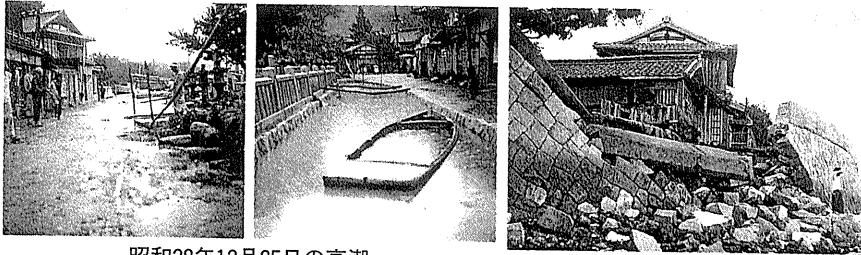
戦前の水害

大正十二年六月二十一日、長雨によって小大下の石灰山が崩れ、人家の埋没十五戸、半壊五戸、圧死者二名の被害をだした。罹災者は一〇一名、河川十四か所三四〇間、道路二か所二二間が要修理となり、災害援護法による県費補助を受けて復旧した。「伊予明治史」には大正十三年六月十七日、豪雨で石灰山が大崩れし、一二〇人が衣食に窮したとある。

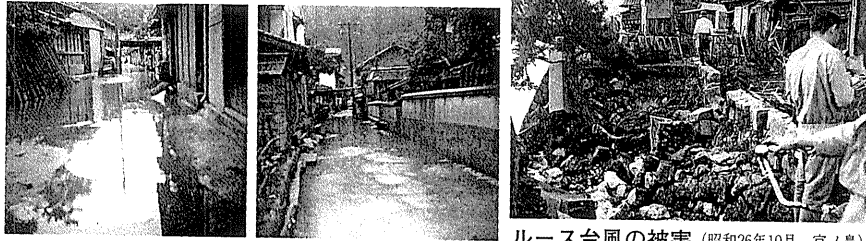
昭和三年八月二十九、三十日は、数十年来の暴風と高潮、九月二日の豪雨により岡村港の防波突堤一〇一間余、道路大字城輪一〇五間余、西側・城ノ下七八間、その他河川堤防の被害ひどく、岡村港は使用不能となった。ために県費補助をうけ、三、四年度だけでも二万五千円余（村債七千円）を出費して復旧を急いだ。

昭和九年九月二十一日は、北西の台風激烈により被害多く、岡村港内の船全壊四、半壊九、小大下港で計四、

3 気象と気候



昭和28年12月25日の高潮



南海地震の被害 (昭和21年12月)

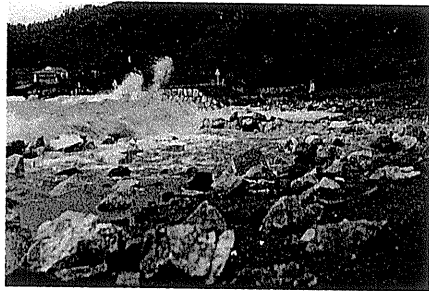
ルース台風の影響 (昭和26年10月 宮ノ鼻)



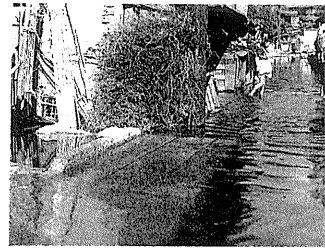
高潮の侵入 (昭和28.12.15 小大下)



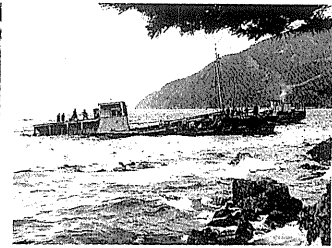
15号台風の被害 (昭和29年9月 城ノ谷)



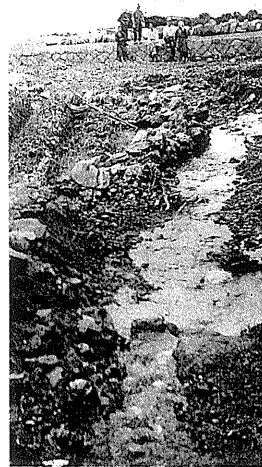
戦後の風水害



高潮の侵入 (昭和23. 西川前)



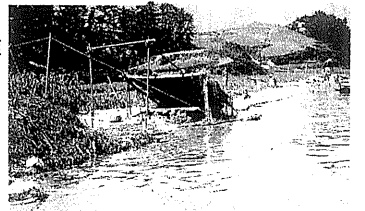
昭和24年6月1日
デラ台風による難
破船 (観音崎)



昭和22年



昭和42年



高潮の侵入 (昭和22. 正浜)



昭和初年頃

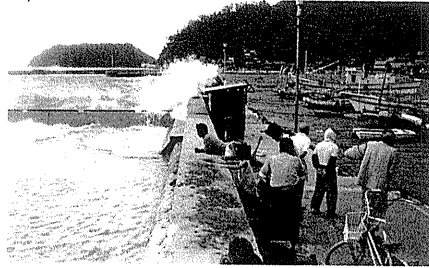
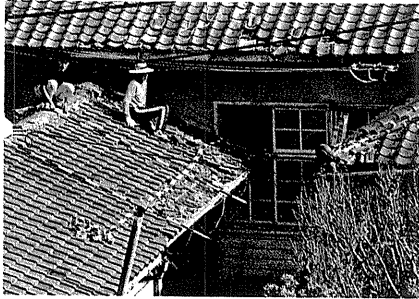
阪神方面で村有の船全壊二、半壊三、死者一名があった。本村では直ちに復旧対策費を起債、十月八日には罹災者に御下賜金があった。

戦後の災害

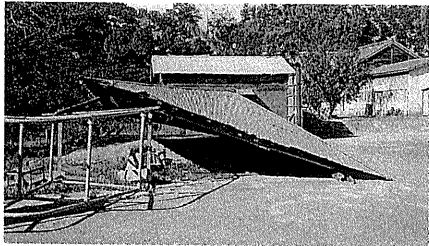
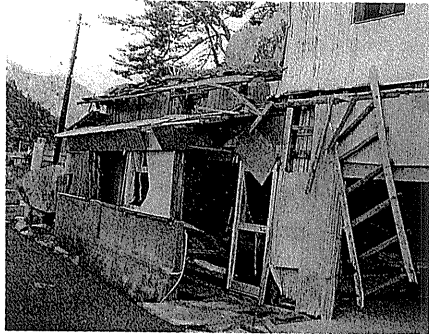
戦後の目立ったものとしては昭和二十三年の高潮、二十四年六月のデラ台風、二十六年十月のルース台風がある。ルース台風では土木費二一〇万円、漁港四〇万円、耕地復旧費二九

十九年九月の一五号(洞爺丸)台風の影響も大きい。四十二年六月には二〇〇坪以上の集中豪雨があり、七八、九月には一〇〇日間の干ばつが続いて、みかんの皮に凹凸ができた。この間、同年の七月九日には集中豪雨があり、山崩れで岡村では十

3 気象と気候



昭和51年の波浪



昭和53年9月14日 台風18号被害

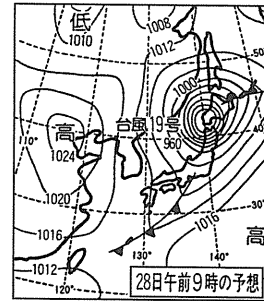
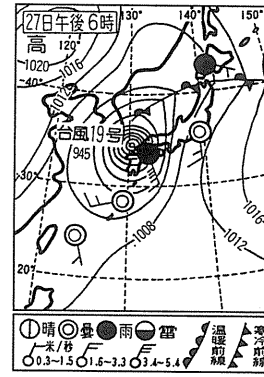
月別台風の発生数と日本への上陸数

(昭和26~55年) 調

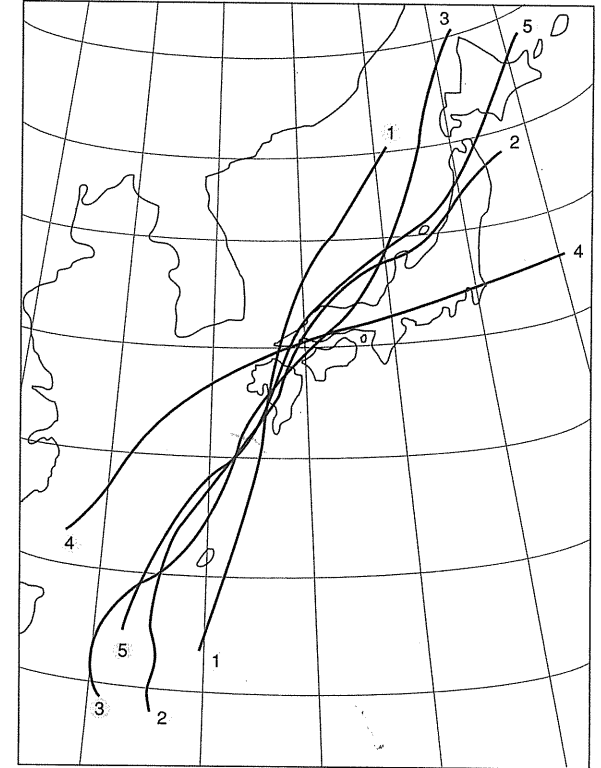
月回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	30年平均
発生回数	15	9	14	24	33	50	121	161	149	118	76	36	806	26.9
上陸回数	-	-	-	1	1	4	13	34	29	7	-	-	89	3.0

(東京天文台59年度版理科年表)

19号台風の時の天気図
(平成3年9月)

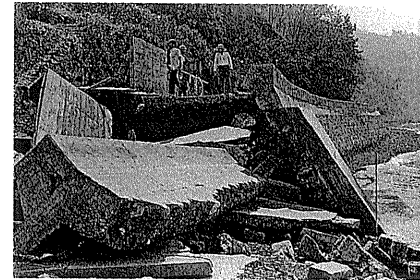


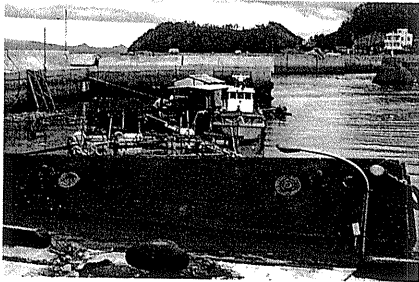
関前村に被害をもたらした台風と進路



- ① S24. 6. 21 (デラ台風)
- ② S26. 10. 14 (ルース台風)
- ③ S29. 9. 26 (15号洞爺丸)
- ④ S53. 9. 16 (18号台風)
- ⑤ H 3. 9. 28 (19号台風)

昭和45年8月21日の台風





平成3年9月27日 台風19号

台風19号による被害状況及び被害金額 万円

住宅	全壊	1棟	850
	半壊	4棟	1,600
	1部破損	350棟	1,750
	床上浸水	65棟	9,750
	床下浸水	210棟	2,100
小計			16,050
非住宅	全・半壊	8棟	1,650
水産	漁港	5ヶ所	35,500
	漁船	33隻	3,800
	漁具		200
	共同施設	4ヶ所	4,825
	養殖施設	1ヶ所	1,000
	養殖物		175
小計			45,500
農業	果樹・樹体		120,300
道路	村道	3ヶ所	3,300
	県道	1ヶ所	4,000
	農道	3ヶ所	3,600
小計			10,900
港湾	防波堤	3ヶ所	36,000
	浮桟	2ヶ所	2,100
	護岸	4ヶ所	4,200
小計			42,300
文教		4棟	440
合計			237,140

皆無、数年間は影響があるといわれ、この機に栽培を中止する農家もあった。観音崎の白石は崩れ落ち、大下早津佐神社では巨木が倒れた。岡村港はごみで埋もれ、台風の後には桜が狂い咲いた。

なお四〇年代では、沿岸都市

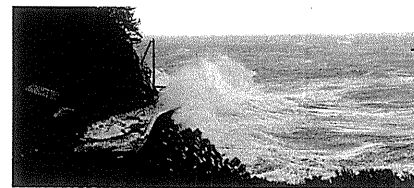
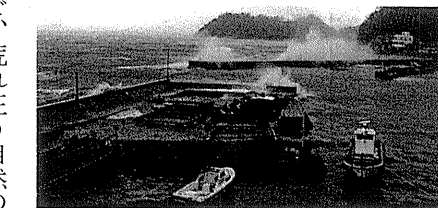
二人が生埋めとなり、うち六人が死亡した。また大下でも三人の死者を出した。翌四十八年も異常渇水の年であった。四十五年八月二十一日の一〇号台風は、風速三〇m以上、雨量五〇mmで全村が被害を受けた。風の強さと波浪の大きさは、古老もかつて例がないという位で、人家、公共施設、漁業、収穫期目前のミカン等に三億円余の被害額となった。

昭和五十三年九月十五日、中国筋を通過した一八号台風は、島嶼部では風や高潮による被害が多く、本村でも家屋全壊二戸、半壊一〇戸、床上浸水三七戸、床下浸水七〇戸の被害を出した。これら本村に被害をもたらす台風のコースには共通点があり、九州を北上して周防灘に入るのが最も危険といえる。

台風10号の被害額概算

(昭和45年) 万円

公道	11	4,200
共 施 設		
護 路	2	500
海 岸	1	925
海 港		
学 校	2	560
		100
家 屋		
一 部	430戸	1,000
床 下	100戸	500
農 業		
農 地	10ha	500
果 樹	2,509 t	12,545
樹 体	230ha	8,500
漁 業		
漁 船	5	300
漁 船	12	120
漁 船	4	120
漁 船	34	140
魚 巢	40	240
養 魚		500
真 珠	8流	200
共 同 作 業 場		80
商 工		
製 粉	2棟	200
製 品		200
合 計		3,143



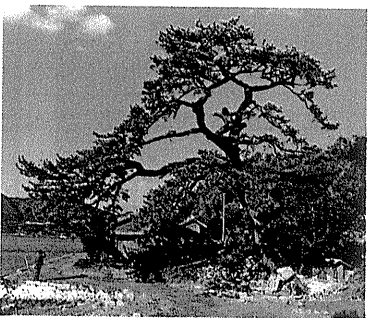
平成3年9月14日の台風17号

平成三年秋の台風

平成三年の九月は、二度の台風に見舞われた。

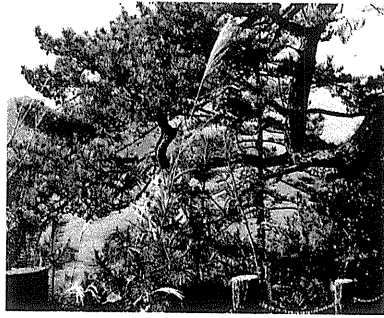
特に一九号の被害は、かつて例をみない程の被害で、荒れ狂う自然の破壊力の前に茫然とするのみであった。特にミカンは収穫間近であったが、吹き上げる塩害によって枯死してしまい、収穫の用途は

の工場や家庭排水によって海水の汚染が甚だしく、赤潮等の発生は本村の漁業にも悪影響を与えた。また五十年頃から松喰い虫によるマツの枯死が目立ち、村の景観が一変した。五十一年の被害は二二本一五七石、五十四年三



小大下水ノ元のマツ
(昭和53年に枯死)

月には樹令三五〇年、幹の直径二・一mもあつた水の元の松も、前年の枯死によって伐採された。



松喰い虫の被害と防除 (昭和56年)